



## ～第42回県高等学校PTA研究大会(中頭大会)開催～

先月19日(土)、宜野湾市民会館を主会場に、離島を含む県内各地から約800名余の関係者参加の下、県高等学校PTA研究大会中頭大会が開催されました。

今大会は、午前中に4つの分科会(第1:「健全育成とPTA活動」、第2:「家庭・地域とPTA活動」、第3:「進路指導とPTA活動」、第4:「定時制教育とPTA活動」)に分かれ、それぞれ代表3校による実践報告等が行われる中、各会場とも活発な質疑応答が交わされ、とても熱気を帯びた分科会となりました。

午後からは宜野湾市民会館大ホールにおいて、西原高校マーチングバンドのアクションを皮切りに、「問いかけ方で変わるコミュニケーション～子どもとつながる魔法の質問～」と題し、清川香織氏(笑顔デザイナー)による記念講演が行われました。講演の中で清川さんは、「相手とコミュニケーションをとる中で共通点を見つけ、受容することで安心感が生まれ自分の居場所が見つかる(=類似性の法則)ことや、「尋問と効果的な質問」の違い(「何故(why)出来ない?」と聞くのではなく「どのようにすれば(how)出来る?」)と問いかけることで、次へとつながる効果的な質問(気付き→行動→改善)になることを熱く語り、親としてとても参考になる講演会でした。

その後全体会において、大会宣言文の決議や子ども達の自己肯定感を高める為のスピーチ文を採択し大会を終了しました。

特筆すべきは、全大会において、本校PTA会長大城一也さんと保健委員長の新垣政孝さんの2名が、県高校PTA連合会より、長年の活動実績が認められ個人の名において表彰されました。拍手喝采!!



## ★ 師走 (しわす)



旧暦で12月のことを指す。語源は諸説あるが、師匠の僧がお経をあげるために東西を馳せる月と解釈する「師馳す(しはす)」が主な語源。

この説は、平安末期の「色葉字類抄(いろはじりいしょう)」に、「しはす」の注として説明されている。「師馳す」説は民間語源で、この説を元に「師走」の字が当てられたと考えられている。

## ★ 冬至 (とうじ)



北半球において太陽の位置が1年で最も低くなる日で、日照時間(昼の時間)が最も短い。(12月22日頃)

冬至には「ん」のつくものを食べると「運」が呼び込めると言われ、かぼちゃ(南瓜なんきん)は風邪予防にも効果的でその時期によく食べられる。

## ★ 一陽来復 (いちようらいふく)

冬至は太陽の力が一番弱まった日であり、この日を境に再び力が蘇ってくることから、陰が極まり再び陽にかえるという意味の「一陽来復」といって、冬至を境に運が向いてくる日(皆が上昇運に転じる日)とされている。



## ～～ 時の言葉 ～～

「始まるのを待ってはいけない。自分で何かやるからこそ何かが起こるのだ。」



植村 直己 (うえむら なおみ) 1941～1984(認定死亡)：兵庫県出身の世界を代表する登山家・冒険家。日本人で初めてEベリタ山に登り、世界で初めて5大陸最高峰登頂('70)。犬ぞり単独北極圏到達('78)。'84年2月米国アラスカ州マッキンリー登頂後消息不明となる。国民栄誉賞受賞('84)。

## ～～ English Maxim (名言) ～～

"I'm not discouraged, because every wrong attempt is another step forward."

「私は決して失望などしない。どんな失敗も新たな一歩となるからだ。」



Thomas Edison (トマス・エジソン)：1847～1931 米国オハイオ州出身発明家・起業家で発明王の名を持ち、生涯に1,300もの発明を行った。1877年蓄音機の実用化で名声を得、その後、研究所を設立し、電話や電灯照明等を商品化、電力の事業化にも成功した。

## 5年ぶり「NAHAマラソン」挑戦!

12月4日(日)9:00



第32回NAHAMARATHONのスタートの号砲が鳴った。5年間のブランクと練習不足の不安の中、中間地点を目標に走った。若い頃は3時間後半で走れた時もあったが

年齢と共に完走が目標になり、今となっては体力と相談しながらの参加となっている。本校からも金城教頭をはじめ、4名の職員が参加した。年末の風物詩にもなっているこのマラソンは、沿道の応援が途切れることがなく、ランナー達にとっては魅力溢れるマラソンである。

いくつになっても自分自身の可能性に挑戦する機会を作り、それにトライする気持ちを持ち続けたいものだ。Yes, I can!

